



35回目の施肥作業

5月25日（水）の午前中、桧木内川堤桜並木のソメイヨシノへの施肥作業を、大曲支援学校せんぼく校中等部の皆さんと本校2年生が行いました。

2年生は前日に仙北市観光文化スポーツ部文化財保護室の担当の方を招き、角館の桜についての解説を受けてからの参加でした。桧木内川堤のソメイヨシノは、昭和9（1934）年に上皇陛下御誕生記念として植樹されたもので、施肥作業は昭和63（1988）年に始まり、今年で35回目ということでした。花が終わった後の、今年もよい花を見せてくれてありがとうという「お礼肥え」の意味もあるようです。

本校ではこの伝統的な作業に、毎年2年生が参加してきました。2グループに分かれ1グループは古城橋から下流に向けて、もう1つのグループは横町橋から上流に向けて、桜の木の根元に掘られた穴に、顆粒状の肥料を入れながら進んでいきました。

暑い中での作業となりましたが、作業後の生徒たちは、ふるさとの宝物を守るために大切な一役を担えたことと、日頃からお世話になっている地域に少しは貢献できたという充実感に満ちた表情でした。

引き渡し訓練へのご協力ありがとうございました

5月26日（木）、「県民防災の日」に合わせ地震想定避難訓練に引き続き、小中学校合同の引き渡し訓練を行いました。

迎いの車が集中したため、一時、校地内に車が入り切れない状態になりご迷惑をおかけしすみませんでした。ご家族の方々のご協力のおかげで、有事の際の“引き渡し要領”を確認し共有することができ有意義な訓練になりました。

この後、まさかの事態の折には、今回の訓練の動きを基本に生徒たちをご家族に引き渡すこととなりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

生徒たちには「県民防災の日」を契機に、強い地震が登下校中、自宅にいる時、外に遊びに行っている時、海・河川の近くにいる時、山の近くにいる時など、様々な場面や状況で起きたことを想定し、その時、自分の安全を確保し、自分の命を自分で守るためには、どのように行動したらよいのかを考えてくれるようお願いしました。

1年生の学年ネームが決まりました

本校では、赤・緑・青の学年色に合わせて学年ネームをつけるのが伝統になっています。赤の3年生は「陽響」（ひびき）という名前で“互いの個性を照らしながら、自らの道を切り拓き、一人一人の思いが響き合う学年”になりたい、緑の2年生は「翠翔」（すいしょう）という名前で“心身ともに健康で、未来に向かって一人一人が努力する学年”になりたいという願いが込められています。

そして先日、みんなで出し合った多くの案をもとに学年生徒会のメンバーが苦労しながらまとめた1年生の名前が、「輝昂」（きぼう）に決定しました。この名前には“輝く個性が手を取り合って、理想に向かって努力する、希望にあふれた学年”になりたいという願いが込められています。

各学年ホールに、全ての学年のネームが出そろいました。学年ネームに込められた願いを叶えるためには、生徒の皆さん一人一人の力が必要です。皆さん一人一人がそのための当事者なのです。各学年が自分たちの学年の色を出せるように頑張るとともに、必要な時には各学年の三色を合わせてください。それが、角中の色になると思います。

朝の出来事

先日の朝、生徒の登校を迎えるために「すずかけ通り」を歩いて校門に向かっていました。途中、道路にスナック菓子の空き袋が落ちていました。

子どもたちを試そうと思ったわけではないのですが、登校してくる誰かが気付いてくれるだろうという淡い期待を胸に、拾わずそのままにして校門まで行きました。

自転車や徒歩で、次々に生徒が通り過ぎます。気持ちのよい爽やかなあいさつに、私の心も弾みます。生徒を迎えながらも、時々「すずかけ通り」に視線を送っていました。空き袋は、なかなか無くなりません……。

登校を急いでいて、空き袋に全く気付かなかった生徒もいたと思いますし、気付いたけれども拾うという行動にはつながらなかった生徒もいたと思います。結局、自分で拾い学校へ帰りました。子どもたちには、落ちているゴミに気付く感性を身に付けてほしいと思いますし、学校の中でも外でも気付いたら自然に拾える人に育ってほしいと感じた“朝の出来事”でした。